

「雷雲の観察(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

新幹線からの雷雲観察は、地上での観察にはない利点がある。新幹線車両は高速で地上を移動しているのので、一つの雷雲を、ほぼ同時にさまざまな角度から観察できるのだ。ステレオグラム(立体視写真)の撮影も、新幹線車窓なら可能なはずである。

ステレオグラムは、被写体までの距離の約1/30離れて2枚の写真を撮影すると良いと言われている。この日、私が載っていた新幹線(本庄早稲田駅付近)と積乱雲の「根」の距離は、約4kmだった。その1/30は約130mとなる。

駅間運行中の新幹線の速度を250km/hと仮定すると、1分で約4km進むことになる。130mを進むのにかかる時間は約2秒である。私は車内で写真を撮りながら、咄嗟にそう計算した。

積乱雲は巨大な雲の塊で、内部構造は激しく変化し続けているが、全体の形状は1秒や2秒で変化するものではない。130m離れた二台のカメラで、同時に積乱雲を撮影したのと、同じ効果が得られるのだ。

そこで私は、カメラを持って、7号車デッキを「陣取り」2秒間隔で積乱雲を撮影し続けた。最大の問題は、新幹線の架線柱である。これが約50m間隔で立っているのので、130m進む間に2~3回「遭遇」する。架線柱が写っていない、ラッキーイメージで作った「積乱雲のステレオグラム」が下の写真である。



積乱雲立体視
上越新幹線車窓

交差法

平行法

2016-7.31
C.Tanaka



積乱雲立体視
上越新幹線車窓

交差法

平行法

2016-7.31
C.Tanaka